

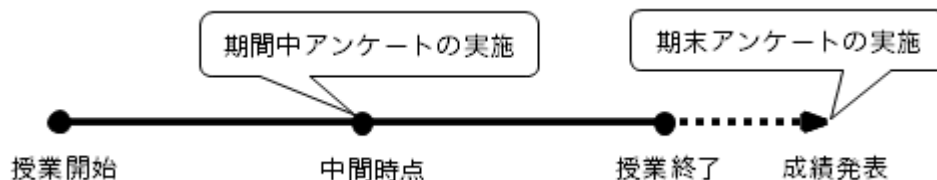
2013 年度 経済学部 前期授業「授業評価アンケート」報告書

経済学部 授業評価担当委員

1. 2013 年度授業評価アンケートの実施概要と重点課題

(1) 実施概要

経済学部では、各授業において授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の 2 回実施している。



- ・ 期間中アンケート：授業期間中の中間時点で授業担当教員が実施し、開講期間中の授業方法の改善を目的としている。
- ・ 期末アンケート：授業終了後、成績発表時に nfu.jp システムにて実施し、次年度以降の授業改善に役立てることを目的にしている。

担当教員は、授業期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて「授業評価アンケート結果報告書」を作成し、授業方法の改善や内容の検討を行っている。担当教員が作成した「授業評価アンケート結果報告書」は、学事課にて学生に開示、閲覧できるようにしている。

(2) 2013 年度授業評価アンケートの重点課題

2013 年度は、昨年度に引き続き、①学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間の増加に取り組ませる、の 2 点を重点課題とした。

しかし、期末アンケートのシステムの設定に誤りがあったため、数量的に把握することができたのは、②に関連して「あなたはこの授業の予習復習に、1 週間で何時間ほど勉強していますか」という質問に対する回答のみである。

2. 本報告書の対象科目

本報告書の対象科目は表 1 の 10 科目のうち、前記開講の 7 科目である。経済学、経済経営のための数学の 2 科目は必修科目である。経営学、金融論、ミクロ経済学、法律学、社会政策、財政学、マクロ経済学、会計学の 8 科目は、これらの中から 4 科目を選択して修得することが卒業条件になる必須選択科目である。これら 10 科目は、いわば学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

表 1 本報告書の対象科目

2013 年度【前期開講科目】		2013 年度【後期・通年開講科目】	
1	経済学	1	財政学
2	経済経営のための数学	2	マクロ経済学（通年）
3	経営学	3	会計学（通年）
4	金融論		
5	ミクロ経済学		
6	法律学		
7	社会政策		

3. 2013 年度授業評価アンケート回答結果～重点課題を中心として～

前述したように、2013 年度学部授業改善の 2 つの重点課題として、①学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間の増加に取り組ませる、を教員の報告書と期末アンケート結果に基づきまとめた。

(1) ①学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする

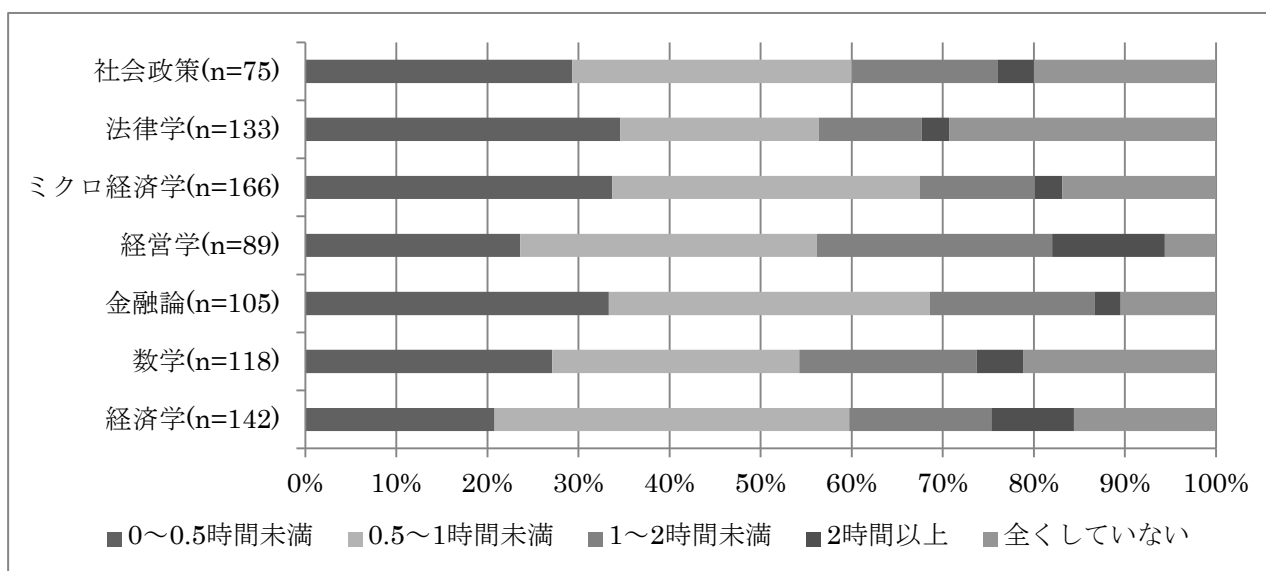
<担当教員の取り組み>

- ・私語や携帯電話の操作などについて厳しく注意する
- ・私語をしている学生がいた場合、教室全体で 1 度目は注意、2 度目は席を離す、3 度目は前に座らせる、その後は退室を促す
- ・科目への関心を高めるために映像の導入を行った
- ・授業内容に変化をもたせるため、映像や例題、小休止などを入れた

(2) ②学生の総学修時間の増加に取り組ませる

【設問】あなたはこの授業の予習復習に、1 週間で何時間ほど勉強していますか。

図 2 結果 (n は回答者数)



<回答結果から>

- ・科目により若干のばらつきはあるが、約 6 割の学生が 1 時間未満の予習復習時間となっている。
- ・1 週間全く予習復習をしない学生が、少ない科目で 5.6%、多い科目で 29.3%となっている。ただし、アンケート回答者には K 評価の学生も含まれている。

<担当教員の取り組み>

- ・毎回の授業において授業内容を復習・予習させるため宿題提出を行っている
- ・任意でレポートの提出を促す
- ・授業開始時に前回の授業内容の確認問題を解かせる (復習をしてから教室にこさせるため)
- ・学習支援室でサポートを行う
- ・毎回の授業で小テスト (レポート) を行っている

4. 論点

2013年度後期開講科目についての分析を加えた上で、学部としての対応策を議論していくことが必要である。

- ① 学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする
 - ・教員は、私語の注意や授業態度について適時学生に注意や指導を与えることが必要である。
 - ・授業態度が悪い学生に対しては、授業を妨害している意識、他の学生の学習機会を奪っていることへの意識を喚起させることが必要である。そのためには、授業態度の悪い学生を特定化して反省を十分に促すことを見逃してはならない。その上で、教室から退出してもらう可能性があることを学生に周知すべきである。
 - ・授業態度が悪い学生に注意や指導を与えることは必要だが、そのことが真面目に授業を受けている学生に与える影響についても、一定の配慮が必要かもしれない。
 - ・授業中の携帯電話等の使用に関するルールについても、学部として議論をしていくことが必要ではないか。

- ② 学生の総学修時間の増加に取り組ませる
 - ・復習・予習にかかる学修時間が0分や0分～30分未満の学生については、学生自身の学習に対する姿勢が原因であり、教員の復習・予習を学生に行わせる仕組みを行っていても限界がある。
 - ・宿題を出すことは総学修時間の増加に寄与するが、多くの学生が他人の解答を機械的に写して提出していることなどを考えると、宿題の出し方に工夫が必要かもしれない。

以上

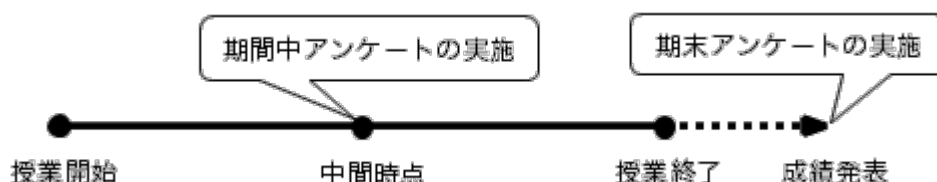
2013 年度 経済学部 後期・通年授業「授業評価アンケート」報告書

経済学部教務委員（授業評価アンケート担当）

1. 2013 年度授業評価アンケートの実施概要と重点課題

(1) 実施概要

経済学部では、各授業において授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の 2 回実施している。



- ・ 期間中アンケート：授業期間中の中間時点で授業担当教員が実施し、開講期間中の授業方法の改善を目的としている。
- ・ 期末アンケート：授業終了後、成績発表時に nfu.jp システムにて実施し、次年度以降の授業改善に役立てることを目的としている。

担当教員は、授業期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて「授業評価アンケート結果報告書」を作成し、授業方法の改善や内容の検討を行っている。担当教員が作成した「授業評価アンケート結果報告書」は、学事課にて学生に開示、閲覧できるようにしている。

(2) 2013 年度授業評価アンケートの重点課題

2013 年度は、昨年度に引き続き、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、の 2 点を重点課題とした。

2. 本報告書の対象科目

本報告書の対象科目は表 1 の 10 科目のうち、後期・通年開講の財政学、マクロ経済学、会計学の 3 科目である。

経済学、経済経営のための数学の 2 科目は必修科目である。経営学、金融論、ミクロ経済学、法律学、社会政策、財政学、マクロ経済学、会計学の 8 科目は、これらの中から 4 科目を選択して修得することが卒業条件になる必須選択科目である。これら 10 科目は、いわば学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

表 1 本報告書の対象科目

2013 年度【前期開講科目】		2013 年度【後期・通年開講科目】	
1	経済学	1	財政学
2	経済経営のための数学	2	マクロ経済学（通年）
3	経営学	3	会計学（通年）
4	金融論		
5	ミクロ経済学		
6	法律学		
7	社会政策		

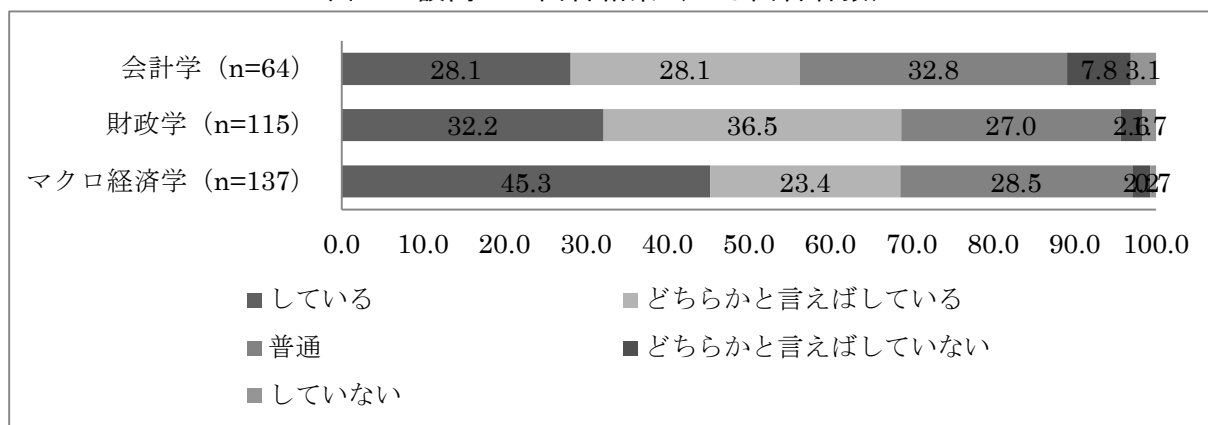
3. 2013 年度授業評価アンケート回答結果～重点課題について～

前述したように、2013 年度学部授業改善の 2 つの重点課題として、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、を教員の報告書と期末アンケート結果に基づきまとめた。

(1) ①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする

【設問 7】教員は、私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしていましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 1 設問 7 の回答結果（n は回答者数）



<アンケートの回答結果>

回答学生のうち半数以上が、「教員が私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしている、あるいはどちらかと言えばしている」と回答している。この結果から、おおむね教員の授業対応について肯定的な評価を得ているといえる。

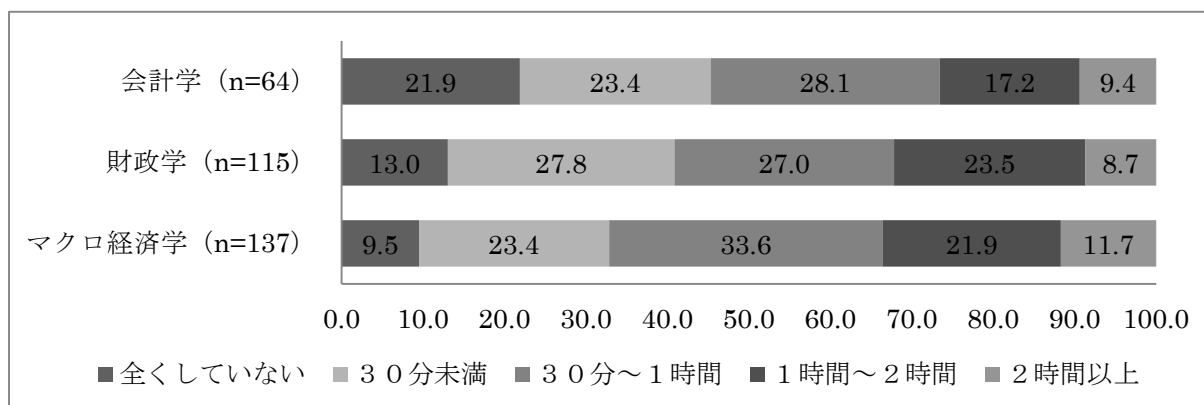
<担当教員の取り組み>

- ・学生の私語については、気になったレベルで注意を促した。ただし、「気になる」水準が学生と教員とで異なる可能性は否定できない。

(2) ②学生の総学修時間を増加させる

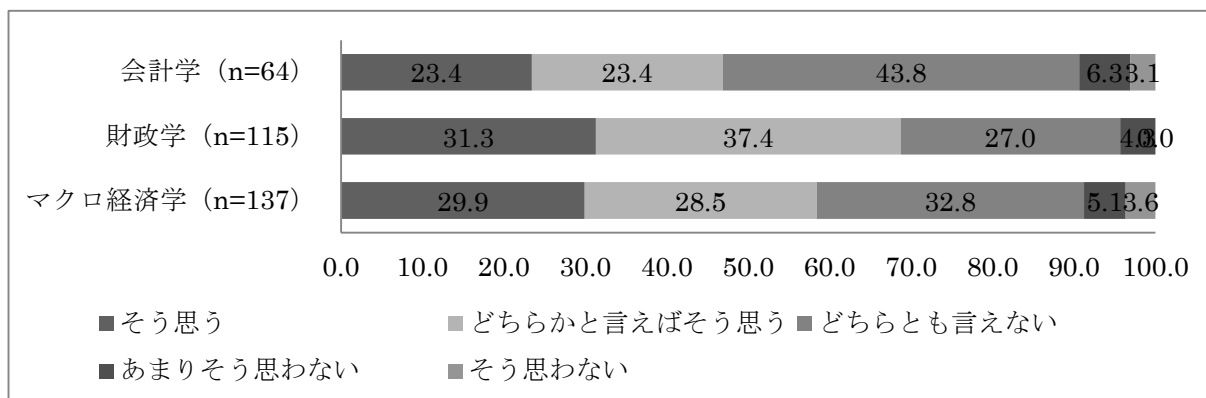
【設問 9】あなたは 1 回の授業に対して、どの程度勉強しましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 2 設問 9 の回答結果（n は回答者数）



【設問 10】この授業は、宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）になっていましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

図3 設問10の回答結果（nは回答者数）



<回答結果から>

回答学生のうち半数以上が、1回の授業に対して30分以上は勉強していると回答している。教員が「宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）」にしていることがこの結果に結びついていると考えてよいだろう。

1回の授業に対して「全く勉強をしていない」「30分未満」と回答した学生が、科目によるばらつきはあるが3割から5割程度いる。この層の学生にどのようにして勉強に取り組ませるか、ということが今後の課題になるだろう。ただし、この中にはK評価の学生も含まれている。

<担当教員の取り組み>

- ・毎回の授業で、授業の復習を意図した宿題を課している。
- ・テキストで次回の授業の予習箇所を伝えて、予習をさせる仕組みを試みた。
- ・宿題については特に回収していないが、学生はそれなりに取り組んだことがミニッツ・レポートから読み取れた。

4. 論点

これまで学部として、学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くすること、学生の総学修時間を増加させることに取り組んできた。

- ① 学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする
 - ・教員は、私語の注意や授業態度について適時学生に注意や指導を与えることが必要である。
 - ・授業態度が悪い学生に対しては、授業を妨害している意識、他の学生の学習機会を奪っていることへの意識を喚起させることが必要である。そのためには、授業態度の悪い学生を特定化して反省を十分に促すことを見逃してはならない。その上で、教室から退出してもらう可能性があることを学生に周知することが必要である。
- ② 学生の総学修時間を増加させる
 - ・復習・予習にかかる学修時間が0分～30分の学生については、学生自身の学習に対する姿勢に原因があるといえる。教員が学生に復習・予習を行わせる取り組みを行っていても、それに取り組むかどうかは学生次第だからである。しかし、例えば学習支援室を活用するなどして、学生に勉強しなければならないということを意識づけする必要があるだろう。

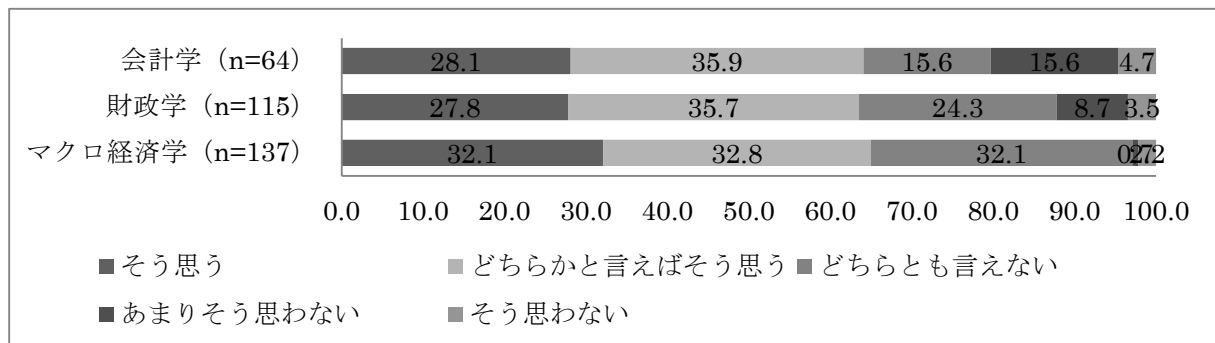
・宿題を課すことは総学修時間の増加に寄与するが、他人の解答を機械的に写して提出する学生がいることを考えると、宿題の出し方に工夫が必要かもしれない。授業評価アンケートの結果を、学部としてどのように教育の改善に結び付けていくかを具体的に検討していくことが今後の課題である。

5. 参考

以下、参考資料として、上記で取りあげた設問 7、9、10 以外の結果を示しておく。

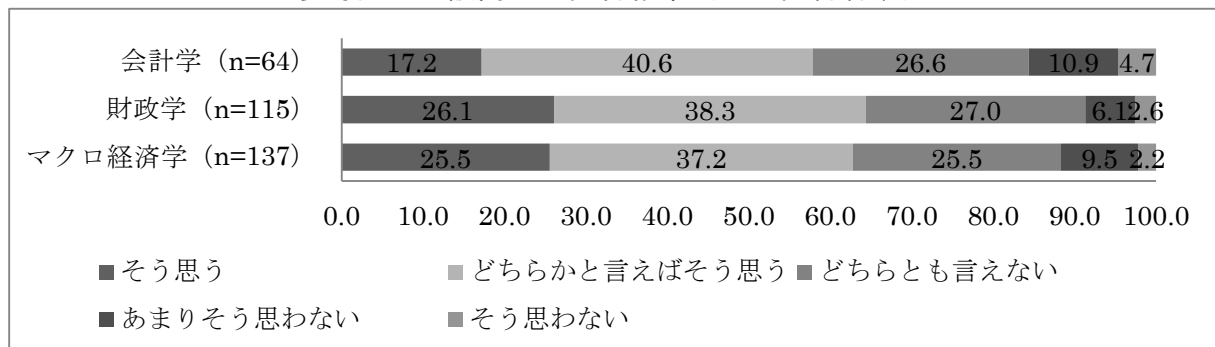
【設問 1】あなたはこの授業に頑張って取り組みましたか。(あてはまるものを 1 つ選んで下さい。)

参考図 1 設問 1 の回答結果 (n は回答者数)



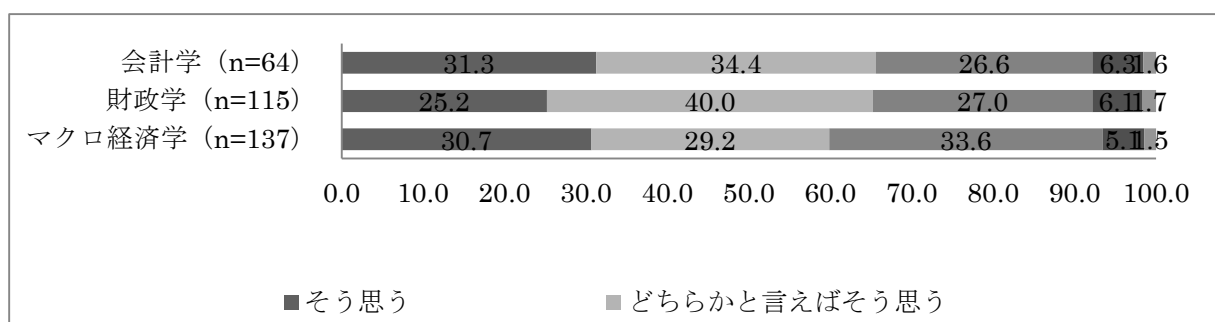
【設問 2】授業の目標・内容について理解できましたか。(あてはまるものを 1 つ選んで下さい。)

参考図 2 設問 2 の回答結果 (n は回答者数)



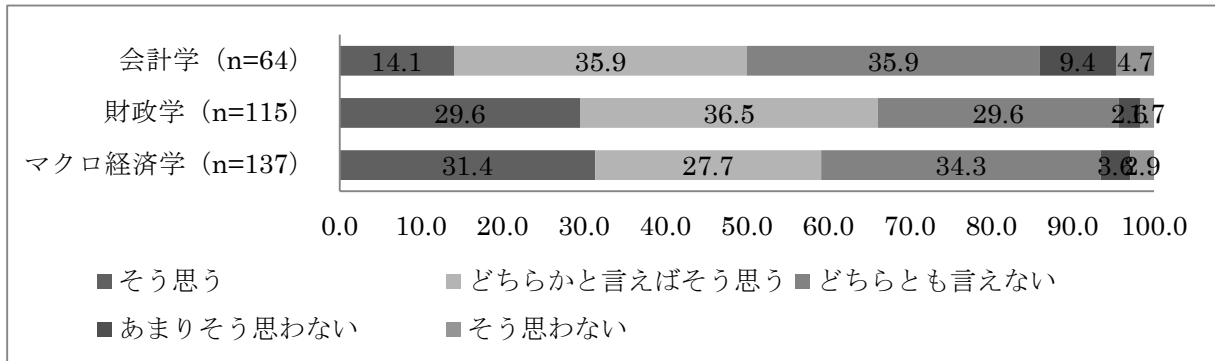
【設問 3】教材 (テキスト、レジュメなど) は授業の理解に役立ちましたか。(あてはまるものを 1 つ選んで下さい。)

参考図 3 設問 3 の回答結果 (n は回答者数)



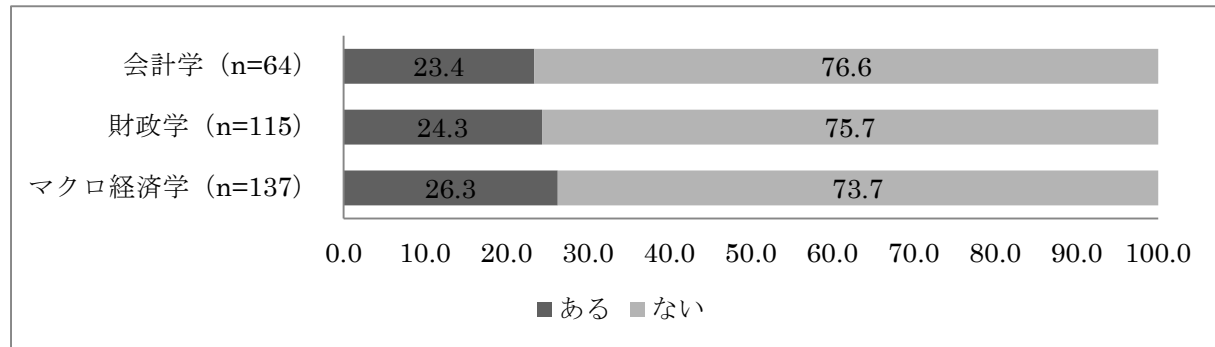
【設問4】 教員は積極的に判りやすい授業をしましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図4 設問4の回答結果（nは回答者数）



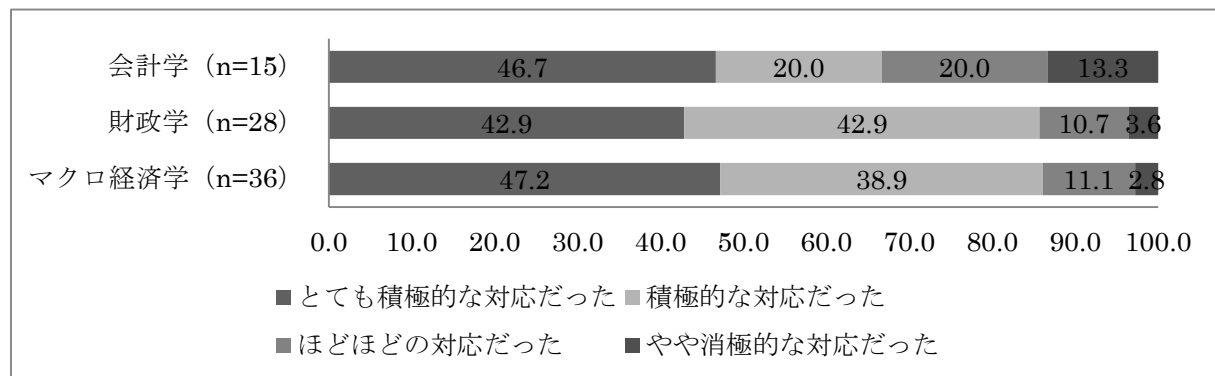
【設問5】 教員に授業内容について質問をしたことがありますか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図5 設問5の回答結果（nは回答者数）



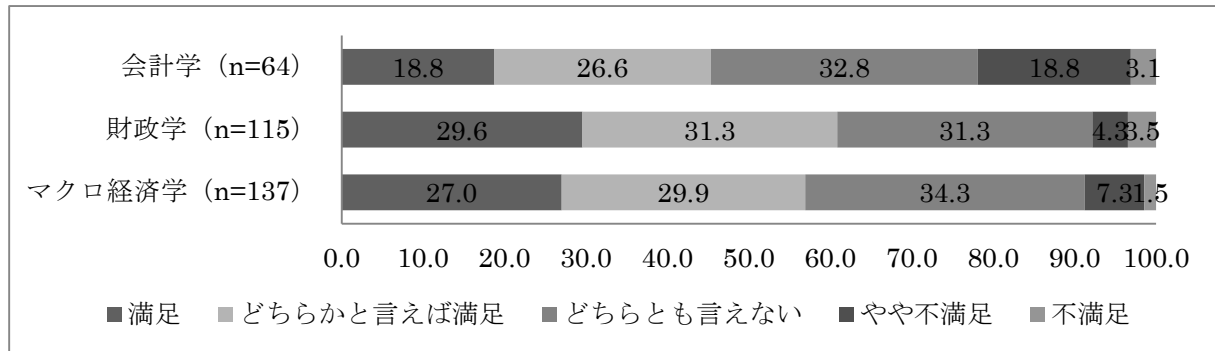
【設問6】 質問5で「1. ある」と答えた人のみ回答してください。質問・相談をしたときの教員の対応はどうでしたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図6 設問6の回答結果（nは回答者数）



【設問8】授業全体に対する満足度はどの程度ですか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図7 設問8の回答結果（nは回答者数）



以上